トライアングルティルト式介助用車いす

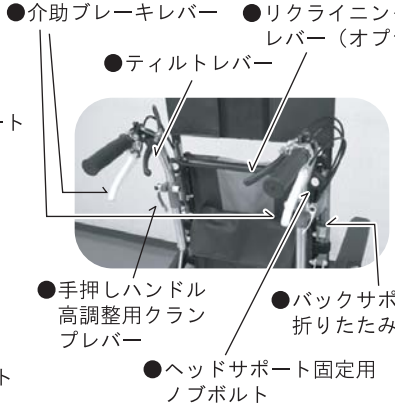
RED WOOD（レッドウッド）

取扱説明書

この度は、製品をお買い上げ頂きまして、まことにありがとうございます。製品を安全、快適にご使用いただくための大切な内容が記載されております。ご使用前に必ずお読みください。
なお、保証書も掲載致しておりますので、大切に保管してください。

※オプショナル仕様

各部の名称



出荷時は運送時の安全の関係でフットサポートが外側に回転して収納されている場合があります。フットサポートの戻し方につきましては、Ｐ５をご覧ください。

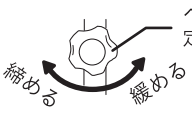
●足踏み式駐車ブレーキ

仕様・サイズ

●全長：104(104)cm　●全高：130(82)cm　●全幅：60(38)cm　●バックサポート高：48cm
●ヘッドサポート高：83cm　●手押しハンドル高：100～112cm
●アームサポート高：22・24・26・28・30　●フットサポート・シート間距離：33～43cm
●ティルト角度：-2～30°　●バックサポート角度：90・95・100・105・110・115°
●キャスタ：６インチPU　●主輪：16インチバンド式制動ブレーキつき車輪
●駐車ブレーキ：足踏み式　●重量：約22kg　●耐荷重：75kg

※( )は折りたたみ時の寸法です。
※上記はシート幅40cm・シート奥行40cm・ティルト支点前後位置-10cm
前/後座高45cmの標準仕様品のスペックです。

ヘッドサポートの外しかた・取付けかた



外しかた

ヘッドサポートのフレームを固定している、左右のヘッドサポート固定用ノブボルトを緩めると、ヘッドサポートをバックサポートパイプから取り外すことができます。

取付けかた

ヘッドサポートを、バックサポートパイプに奥までしっかりと差し込み、左右のヘッドサポート固定用ノブボルトをしっかりと締め、固定してください。（しっかりと固定され、ヘッドサポートを引き上げても抜けないことを確認してください。）

車いすの拡げかた

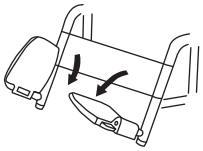
1 手押しハンドルを持って
軽く左右に拡げてください。

2 片方の手押しハンドルを持ち上げるように
反対側の座面下のパイプ部を下の方へ押し下げます。

注意

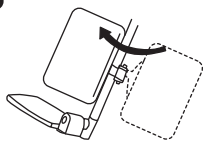
押し下げる際、座面パイプより下に手や指を入れないでください。危険です。

3



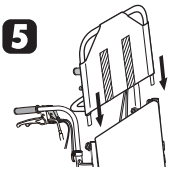
フットサポートプレートを下方へ回転させるようにセットします。使用者が車いすに座ってから行うのが一般的です。

4



レッグサポートパッドのついている仕様（オプショナル仕様）の場合は、レッグサポートパッドをフレームの外側から内側へ回転させてセットします。

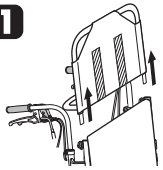
5



ヘッドサポートを、バックサポートパイプに奥までしっかりと差し込み、左右のヘッドサポート固定用ノブボルトをしっかりと締め、固定してください。（しっかりと固定され、ヘッドサポートを引き上げても抜けないことを確認してください。）

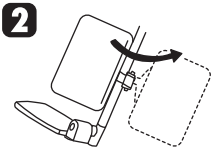
車いすの折りたたみかた

1



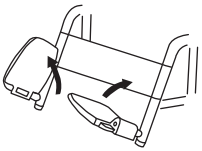
ヘッドサポートを、外します。（ヘッドサポートの外しかたについてはＰ２をご覧ください。）

2



レッグサポートパッドのついている仕様（オプショナル仕様）の場合は、レッグサポートパッドをフレームの外側へ回転させて収納します。

3



フットサポートプレートを上方へ回転させて収納します。

4

座面シートの、前後中央部を持ち上げます。

5

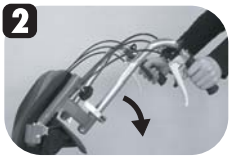
手押しハンドルを持って左右から押し縮めるように、折りたたんでください。

バックサポートの折りたたみかた・固定のしかた

折りたたみかた

1

2

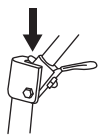


手押しハンドルを握り、一方の手でバックサポート折りたたみレバーを下に押しながら、手押しハンドルを手前に引くように少し折り曲げます。反対側も同様の手順で少し折り曲げてください。続いて、左右同時に折りたたみます。

固定のしかた

手押しハンドルを握り、上方へ引き起こすように持ち上げてください。左右のスライドピンが「カチッ」とロックされたことを必ずご確認ください。

注意
警告



●矢印の部分に手や指を置かないでください。
●矢印の部分にバックサポートシートをはさみこまないように注意してください。
●車いすに乗る際は、完全にバックサポートが固定されている事を確認してから、座ってください。

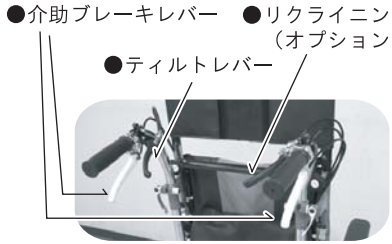
足踏み式駐車ブレーキのかけ方

ゴムキャップ部分を足で踏むことでブレーキがかかります。
解除する場合はゴムキャップ部分を足で跳ね上げてください。

注意警告

- しっかりブレーキをかけていても、乗降時などに、横から強い力が加わると車いすは簡単に動いてしまいますので、十分注意してください。
- 坂の途中では駐車しないでください。やむを得ず駐車する場合は２輪以上に車止めをしてください。
- ブレーキレバーに体重をあずけるなど、レバーに強い力がかかる行為はしないでください。
- 駐車の際はかならず、左右両輪ともブレーキをかけてください。

ティルト・リクライニング・介助ブレーキの操作方法



ティルト

ティルト＆リクライニング

■ティルトのしかた
ティルトレバーを手押しハンドルのグリップと一緒に握り後方へ倒し、止めたい位置でレバーを離せば止まります。（ティルト操作は、介助者が胸や肩、腕で車いすをしっかりと支えながら行ってください。）

■リクライニングのしかた（リクライニング機能はオプションです）
リクライニングレバーを手押しハンドルのグリップと一緒に握り後方へ倒し、止めたい位置でレバーを離せば止まります。（リクライニング操作は、介助者が胸や肩、腕で車いすをしっかりと支えながら行ってください。）

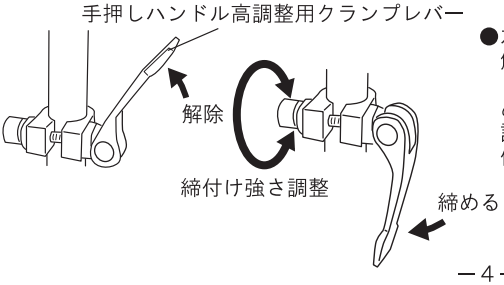
■介助ブレーキ（制動ブレーキ）のかけかた
左右の介助ブレーキレバーを同時に握ると介助ブレーキがかかります。

注意警告

ティルト動作及び、リクライニング動作をは必ず足踏み式駐車ブレーキをかけて行ってください。

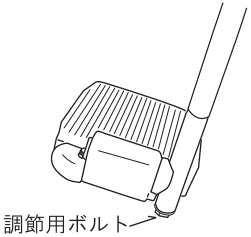
リクライニング動作の際は転倒防止装置（オプション）の使用をおすすめします。

手押しハンドル高の調整のしかた



●左右の手押しハンドル高調整用クランプレバーを解除して、任意の高さに手押しハンドル高を調整します。調整したら、左右のクランプレバーを締めてください。（しっかりと固定されたことを確認してください。）締付けの強さはレバーの反対側のネジで調整してください。

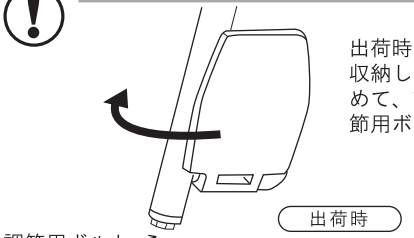
フットサポートの調節のしかた



●フットサポート下端の調節用ボルトを13㎜のスパナで緩めて、高さを合わせてから、調節用ボルトをしっかり締め付けます。（上下にスライドしにくい場合は、プラスチック製ハンマーなどで、調節用ボルトを下からたたくようにショックをあたえると緩みます。）

注意

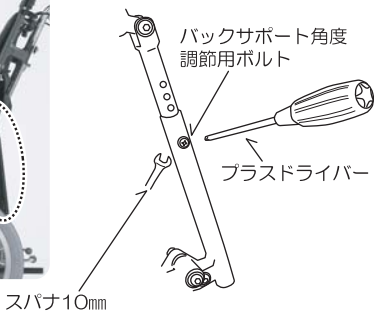
・調節後はしっかりと調節用ボルトを締めて固定してからご使用ください。
・フットサポートを下げすぎると、段差やスロープ等でつまずくことがあります。フットサポートの最下端部で、地面から5㎝程度あったほうが良いでしょう。
・フットサポートに腰掛けたり、登ったりしないでください。



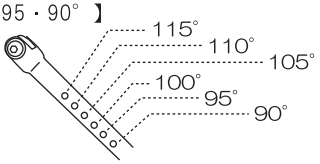
出荷時はフットサポートを、外側後方に回転して収納してある場合があります。調節用ボルトを緩めて、前方に回転させ、高さを調節してから、調節用ボルトをしっかり閉めて固定してください。

バックサポート角度の調節のしかた

※リクライニングオプショナル仕様の場合は、下記方法でバックサポート角度を調節することはできません。リクライニングのしかたについてはＰ４をご覧ください。



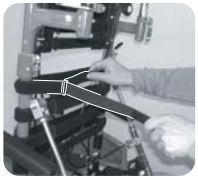
（人が乗っていない状態で調節を行ってください。）
バックサポート角度調節パイプのバックサポート角度調節用ボルトを外し、任意の穴位置で締めてください。（左図と下図参照※左右とも同じ角度になるように調節してください・しっかりと固定されたことを確認してください。）
【バックサポート角度：インナーパイプの穴位置上から115・110・105・100・95・90°】



各部の調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談下さい。

バックサポートの張り具合の調整のしかた

1．バックサポートシートをはずしてください。



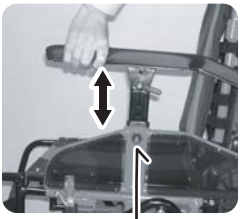
2．任意にマジックベルトを緩めてしっかりとマジックベルトを固定してください。

3．バックサポートシートをかぶせて完成です。

注意警告

・使用者が乗車した状態で調整する場合、ベルトは必ず一本ずつはずして調整してください。全てはずすと、乗車者が落下しケガをする恐れがあります。
・バックサポートの張り調整は、必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。
・ベルトは５㎝程度たるませるのが限界です。それ以上たるませると、マジックの効きが弱くなり、ベルトがはずれる可能性があります。

アームサポート高の調整のしかた



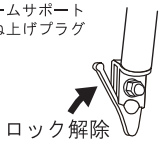
調整用ボタン

●アームサポートを持ち、調整用ボタンを引いて、ロックを解除し、アームサポートの高さをゆっくりと上下させ、高さを調整します。
●調整用ボタンがロックされれば調整は完了です。

・手指等を挟まないように注意してください。
・アームサポートが調整用ボタンでしっかりと固定されていることを確認してください。

アームサポートの跳ね上げのしかた・戻しかた

跳ね上げのしかた



アームサポート先端のアームサポート跳ね上げプラグのレバーを後方に倒すと、アームサポートの固定（ロック）を解除することができます。ロックを解除して、アームサポートを上に回転させるように上げてください。

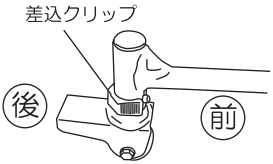
戻しかた

戻すときは、アームサポート跳ね上げプラグを握らずに、そのまま「カチッ」というまでアームサポートを押し下げてください。

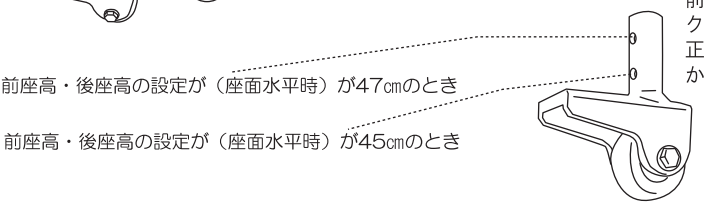
注意警告

・アームサポートの跳ね上げは必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。
・アームサポートを跳ね上げた状態で車いすを動かさないでください。
・跳ね上げて移乗する際は必ず、アームサポート跳ね上げプラグがバックサポートパイプの前に出ない位置まで跳ね上げてください。
・戻すときには、アームサポートと座面の間やジョイント部に、身体や衣服が挟まらないように注意してください。

転倒防止装置について（オプション）

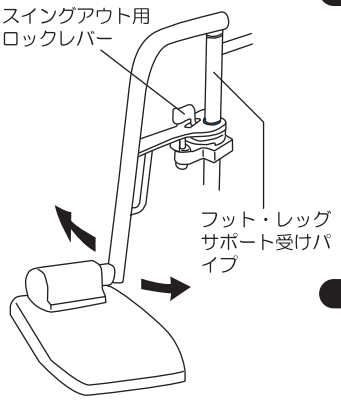


左右の転倒防止装置が差込クリップによってしっかりと正しい高さで固定されていることを確認してください。



前後座高の設定により、差込クリップを通す穴が違います。正しい位置で固定されているかどうか確認してください。

オプション フット・レッグサポートの開き方・着脱のしかた



開きかた・はずしかた

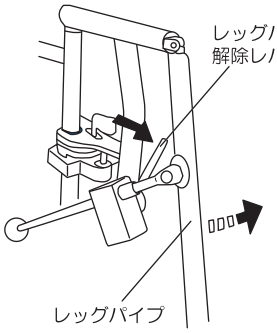
※乗車者の足をフットサポートから外した状態で操作を行ってください。

①レッグサポートベルトつきの仕様の場合は、レッグサポートベルトの中央のマジックを外します。
②スイングアウト用ロックレバーを外側へ押しながら、フット・レッグサポートを外側に開きます。
③フット・レッグサポートを外側へ４５°度程回転させると、フット・レッグサポートを上方に引き抜いて外すことができます。

取付けかた

①フット・レッグサポートを外側に４５°程度開いた状態の角度で、フット・レッグサポートのインナーパイプをフット・レッグサポート受けパイプの穴に、上からまっすぐ差し込みます。
②フット・レッグサポートを「カチッ」と音がするまで、内側に向けて回転させてください。
③レッグサポートベルトつきの仕様の場合は、左右のレッグサポートベルトをマジックではり合わせて、一本になるように固定してください。

オプション フット・レッグサポートの挙上のしかた



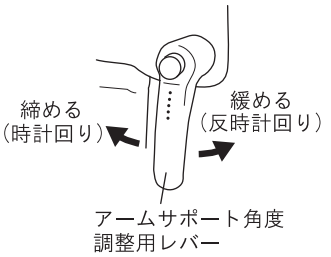
挙上のしかた（上げかた）

レッグパイプを持ってそのまま持ち上げ、角度を調整します。

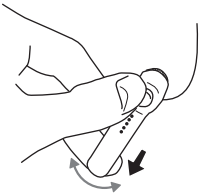
下げかた

レッグパイプを片方の手でしっかり持ちながら、もう片方の手で、レッグパイプロック解除レバーを前へ倒します。そのままレッグパイプの角度を任意に調整し、レバーから手を離して角度を固定します。

アームサポート角度の調整のしかた（オプション）



●アームサポートパッドの下にある、アームサポート角度調整用レバーを緩めると、アームサポート角度を調整することができます。調節したらレバーを締めて、アームサポートを固定してください。



オレンジ色のボタンを押しながら、レバーを手前に引く

※レバーがパッドにあたって回せなくなったら、左図の方法でレバーの向きを、回しやすい位置に変えることができます。

使用前点検（必ず行ってください）

●介助ブレーキがしっかり効くかどうかご確認ください。
●駐車ブレーキがしっかり効くかどうかご確認ください。
●ティルト・リクライニング・介助ブレーキのワイヤーの張り具合が適当かどうか点検し、正常に動作するかどうかご確認ください。
●手押しハンドルがクランプレバーによってしっかりと固定されているかご確認ください。
●ネジ・ボルトのゆるみがないか、フレームのガタつきがひどくないかご確認ください。
●シート・ベルトに亀裂や破れがないかご確認ください。
●主輪タイヤの空気圧は適切かどうかご確認ください。（不足している場合は補充してください）
●主輪タイヤの溝がなくなりかけていないか、タイヤに亀裂がないか、チューブがパンクしていないかご確認ください。
●車輪のガタ・緩み・曲がり等がないかご確認ください。
●前輪キャスタ輪及びキャスタフォークに変形、ひび割れ等がないかご確認ください。
●前輪キャスタが緩んでいないか、抜け落ちていないかご確認ください。
●各部パーツの変形、破損がないかご確認ください。

警告 製品に異常がある場合は使用を中止し、すみやかに販売店に修理・部品交換・調整をご依頼ください。

注意・警告

●各部のガタつきやネジのゆるみ、タイヤのすりへり、その他の不具合により、思わぬ事故につながることがあります。定期的に取扱い業者のチェックを受け、不具合がないか確かめてください。
●使用者の体調が著しく低下しているときは、充分に注意して使用してください。
●からだに合わない状態での使用はしないでください。
●シートの張り調整が不適切な状態での使用はしないでください。
●ティルト及びリクライニング動作は、必ず駐車ブレーキをかけた状態で行ってください。
●各部の調整・調節を行うときは、必ず駐車ブレーキをかけた状態で行ってください。
●走行時には地面に凹凸や障害物がないか充分に注意してください。走行中にメカニカルロックや各部に凹凸や障害物が引っかかると、転倒や製品の破損の恐れがあります。
●悪路や坂道では特に注意して操作してください。バランスをくずして転倒することがあります。
●ティルトレバー・リクライニングレバーを握りながらの走行はしないでください。
●周辺に小さなお子様がいるときは、指や手足を挟むなどして、ケガをするおそれがありますので充分に注意して使用してください。
●製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取扱い、落としたり、たたいたりなど強い力や衝撃を与えないでください。製品が破損する事があります。
●水にぬれた場合、そのままにしておくと製品に錆びやカビが出ることがあります。ぬれた場合は乾いた布ですみやかに拭き取ってください。水中での使用は絶対にしないで下さい。
●気温の差の激しい場所や異常に高温な場所(車中など)に製品を放置しないでください。フレームが傷むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり、高温になったシートに座ることで体調に悪影響を与えることがあります。
●エスカレーターの出入り口付近、エレベーター、自動ドア等の付近で使用する際は注意してください。
●踏切りを横断の際は、車輪をレールに対して直角にして走行してください。斜めの角度で進入するとレールの溝にはまる危険があります。
●手押しハンドルやフレームなどに手荷物等を掛けないでください。荷物等が各部に当たり誤動作をしたり、バランスをくずして転倒する恐れがあります。
●手押しハンドルが動かないようにクランプレバーはしっかりと締めてください。
●ヘッドサポートが使用中にはずれないように、ノブボルトはしっかりと締めてください。
●持ち運びの際は、メインフレーム以外を持たないでください。（アームサポートやヘッドサポート、手押しハンドル、着脱式フット・レッグサポート等を持って運ぶと製品の破損につながる恐れがあります。）
●坂道での駐車はしないでください。やむを得ず駐車する場合は２輪以上に車止めをしてください。
●本書記載以外の使用はしないでください。
●踏台や脚立・歩行器のかわりに使用しないでください。
●子供に操作をさせないでください。
●二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
●フレームの折れ、曲がり、シート・ベルト類の破損など壊れた状態での使用はしないでください。（使用を中止し、すみやかに販売店へ修理、部品交換をご依頼ください。）
●改造や分解はしないでください。
●体重が製品の耐荷重を超える方の使用はしないでください。
●電動走行オプショナル仕様の電動走行ユニットにつきましては、電動走行ユニットの取扱説明書をご覧ください。
●製品の改良・改善により、詳細において本書の内容と異なる場合があります。不明な事柄につきましては、販売店までお問合せください。

MEMO

保証規定

Ⅰ．　保証の範囲

1．保証期間中に品質の不完全に基づく故障を生じた場合には下記の保証書により無料で修理いたします。
2．保証期間はお買い上げ後１年間です。
3．但し、次の場合は保証期間中でも有料になります。
　（ａ）取扱い過誤による故障。
　（ｂ）製品に改造を加えた場合の故障。※純正品以外の部品を使用した場合も含みます。
　（ｃ）天災、地変等による故障ならびに損傷。
　（ｄ）消耗部品、タイヤなど。
　（ｅ）保証書にお買い上げ店名の記載、捺印のない場合。
　（ｆ）保証書のご提示がない場合。
4．以上の保証は本製品を日本国内に設置した場合に限ります。
5．この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

Ⅱ．　サービスのご用命

保証期間中、万一故障が生じた場合はお買い上げの販売店へ保証書を添えてお申し出ください。

Ⅲ．　ご注意

保証書は再発行しませんので大切に保管してください。

品 質 保 証 書

本商品については上面記載の「保証規定」により正常な使用状態において故障が生じた場合に限りお買い上げ日より「１年間」無償にて修理致します。

機　種	レッドウッド	
お客さま	ご住所	〒
	（フリガナ） ご氏名	TEL
お買上げ日	年　日	保証 有効年月日
販売店		㊞
総販売元		
製造元	日進医療器株式会社 〒481-8681　愛知県北名古屋市沖村権現３５－２ ＴＥＬ　〈0568〉21-0635（代）　ＦＡＸ　〈0568〉23-2787	

見本

日進医療器株式会社

本　　社　〒481-8681　愛知県北名古屋市沖村権現３５番地の２
ＴＥＬ＜0568＞21-0635(代)　ＦＡＸ＜0568＞23-2787

東京営業所　〒112-0002　東京都文京区小石川　１－２１－１４
ＴＥＬ＜03＞3814-0923(代)　ＦＡＸ＜03＞3814-4644

大阪営業所　〒533-0013　大阪府大阪市東淀川区豊里　６－１６－１０
ＴＥＬ＜06＞6323-8265(代)　ＦＡＸ＜06＞6326-2554

九州営業所　〒812-0876　福岡県福岡市博多区昭和町2丁目3-8つるまる堂ビル1F
ＴＥＬ＜092＞513-5036(代)　ＦＡＸ＜092＞513-5038

東陽事業部　〒452-0901　愛知県清須市阿原北野１３番地
ＴＥＬ＜052＞401-2741(代)　ＦＡＸ＜052＞401-2751